



思い出できたよ



村民手作りの「夢と感動を描くコンサート」



村の地域の皆さんと、滝沢村の特定非営利活動法人（NPO 法人）劇団ゆう（菊田悌一理事長）が協力して企画した「夢と感動を描くコンサート」（同実行委主催）が7月30日、村社会体育館で開かれました。地域の皆さんや子どもたちも参加し合唱や踊り、ミュージカルを3時間繰り広げ、約800人の観衆を魅了しました。

同実行委の森田真奈子代表は「普代の風や雲や光や土が創り出す潮騒の風土に今日からは劇団ゆうの風が流れ込みます。ゆうとの出会いによって普代の子どもたちは、生涯失うことのない財産を手にすることになりました。まさに地域みんなで創るコンサートを創りあげることができたことを、心から感謝申し上げます」とあいさつしました。

コンサートは合唱やダンスなどが中心の1部と同劇団のミュージカル「ボク、天使をみたよ」の2部構成。1部は劇団ゆうの子どもたちのオリジナルモデルで幕を開け、普代児童館園児のダンス、小学生20人の歌、普代中学生の合唱、てほかい合唱団、コーラスライオット風、グリー

ンエコー（旧大野村）、地域の皆さんが、交流のハーモニーを響かせました。1部の最後は、村婦人会や老人クラブの皆さん、劇団ゆうの子どもたちも一緒に「普代音頭」で交流の輪を広げました。

2部はミュージカル「ボク、天使をみたよ」。難病を抱える少女の友人たちが、少女ゆかりのからくり時計を修理してクリスマスイブまでに動かそうとする物語で、病院の患者役で村の小学生15人が初挑戦しました。

子どもたちは軽快な音楽に合わせてステージに登場。短い練習間にもかかわらず、劇団の子どもたちに負けないくらい、体いっぱい演技していました。そして、観客の皆さんも子どもたちの一生懸命に拍手を送っていました。

公演終了後、同劇団の菊田代表は「村の皆さんはとても協力的で感謝しています。たった8日間の練習でしたが、子どもたちにとって良い思い出になったと思います。今日のコンサートは劇団の子どもたち、普代の子どもたちにとって、大きな一歩になりました」と笑顔で話していました。